

皆さんこんにちは。文化財課の児玉です。

土曜の夜に沖館市民センターに行くと、笛や太鼓などのお囃子のにぎやかな音が聞こえてきます。演奏しているのは青森市内の子どもたちから構成される「八朔」^{はっさく}のメンバーで、岩木山登拝のお囃子（登山囃子・下山囃子）を元気に練習していました。



お囃子を演奏する「八朔」のメンバー

岩木山の登拝行事は、青森市を含む津軽一円から岩木山へ向かい、御来迎を拝み帰還するもので、「お山参詣」、「ヤマカゲ」などと呼ばれ、旧暦の7月末日から8月15日の間に、村落の人々が集団で登拝するのが特色です。お山参詣の準備は、その年の豊凶の状態や地域によって若干の相違はありますが、一般的には村落の信仰集団を単位に約10日前から始められます。

かつては、青森市内の各村落でお山参詣が行われていました。登拝前のお山参詣の準備の状況を見てみると、高田では熊野宮の境内にある獅子踊り小屋に、荒川では牛館川のそばに仮設の小屋を建て、1週間ほど寝泊まりして過ごしました。合子沢では稲荷神社、岡町では岡町八幡宮、滝沢では^{おおやまづみ}大山祇神社に1週間ほど泊まり込み、近くを流れる川で^{みずごり}水垢離をとりました。海岸部にある西田沢や後潟、浅虫などの村落では海で水垢離をとりました。

また、登拝には各地区の^{うぶすながみ}産土神を回って歩かないと資格がないともいわれ、野内の貴船神社には宮田、矢田、横内、戸山、筒井などの近隣の村落から参拝しに来ていたようです。

各村落の産土神の神社に参拝した後は、白装束に身を固め、御幣や^{のぼり}幟を立てて街道を練り歩き、「サイギ、サイギ…」の登山囃子で^{にぎにぎ}賑々しく唱和して、総産土神の大社と称える岩木山神社に参拝します。旧暦8月1日の「朔日山」^{つきたちやま}では、参拝者は岩木山の山頂を目指して未明に出発し、懐中電灯など灯りを頼りに岩場を登り、山頂付近でご来光に向かって手を合わせます。その後、岩木山神社に戻り無事登拝の報告した後は、「バダラ、バダラ、いいヤマかけた」と歌い踊って帰途につきます。



お山参詣のようす

近年では、村落ごとのお山参詣が少なくなり、また、少子化の進行や指導者の高齢化により、それまで地域に伝えられてきた岩木山登拝のお囃子の存続も厳しくなってきました。

そうした中で、冒頭で紹介した「八朔」は、青森市内の各地域から集まって結成された新しい保存団体で、次世代へ保存・伝承するための活動に対し、大きく期待しているところです。